

《今月のトピックス》

- 風しんが非常に流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

パラチフス	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
E 型肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
アメーバ赤痢	2 件	梅毒	1 件
急性脳炎	1 件	風しん	66 件
後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	4 件		

- 1 パラチフス:** 1 件の報告がありました。感染経路感染地域等不明です。
- 2 E 型肝炎:** 60 歳代の報告が 1 件ありました。国内での経口感染が推定されていますが、詳細は調査中です。E 型肝炎の報告で国内感染が推定されたのは、市内では本件が初めてです。1999 年 4 月から 2008 年第 26 週までの E 型肝炎の報告のうち、推定感染地域が国内とされている 218 例中、111 例に生肉や内臓の喫食が関連していたとのことです。肉や内臓については、中心部までよく加熱して食べましょう。E 型肝炎となった場合の致死率は、一般の人々では 0.5-4.0% ですが、妊婦の場合では 17-33% と高く、注意が必要です。
 - ◆E 型肝炎とは(国立感染症研究所 H.P.)
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/hepatitis/hepatitis-e.html>
 - ◆E 型肝炎について(横浜市衛生研究所 H.P.)
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hev1.html>
- 3 アメーバ赤痢:** 腸管外アメーバ症(感染経路・感染地域等不明)1 件、腸管アメーバ症(日本国内での性的接触による感染が推定)1 件の報告がありました。
- 4 急性脳炎:** 幼児の報告が 1 件ありました。接触感染が推定され、病原体として便検体からロタウイルス(遺伝子型 G1P8)が検出されています。下痢、嘔吐が 3 日間続いた後、小脳失調や意識障害が出現しました。
- 5 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):** AIDS が 2 件、無症状病原体保有者 2 件の報告がありました。全て国内での感染が推定されています。無症状病原体保有者の 1 件は異性間性的接触、その他の 3 件は同性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 2013 年 4 月 1 日より届出疾患となりました。70 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。症状は肺炎で、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。血清型は型別不能型でした。感染経路は不明です。なお、インフルエンザ菌では、莢膜があるものについては a~f 型までの 6 種類に分類されていますが、莢膜がないものは分類不能(nontypeable)型とされています。分類不能型は、重症の感染症を起こすこともありますが、莢膜があるインフルエンザ菌に比べると概して重症とはなりにくいと言われています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症:** 2013 年 4 月 1 日より届出疾患となりました。6 件の報告があり、いずれも血液から菌が検出されています。それぞれの症例は、①90 歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は全身倦怠感で、胆管炎からの感染が推定されています。血清型 11 型②70 歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と呼吸困難。血清型不明③50 歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱。血清型 22 型④0 歳(生後 6 ヶ月~12 か月) 女児。ワクチン接種歴 3 回(7 価結合型) 有り。症状は肺炎。血清型 19 型⑤80 歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、全身倦怠感。血清型 7 型⑥80 歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は肺炎。血清型検査中)の報告がありました。予防にはワクチン接種が重要です。
- 8 梅毒:** 1 件の晩期顕症梅毒の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

9 風しん:66 件(男性 55 件、女性 11 件)の報告がありました。5 件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんの流行は昨年 6 月から継続し、今年に入り報告数が大幅に増加しています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています*。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4 月 22 日から予防接種の助成が始まりました。

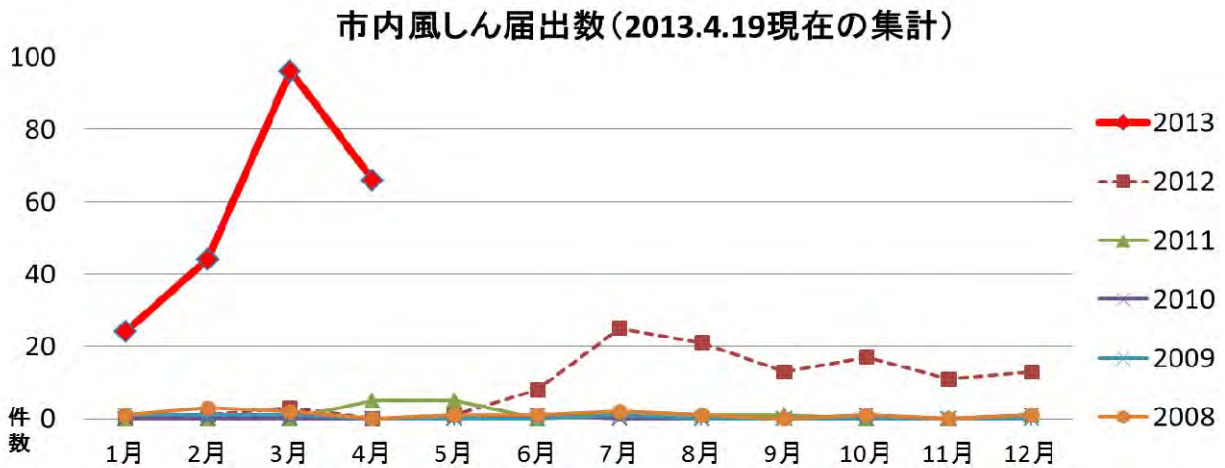
※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.gov/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

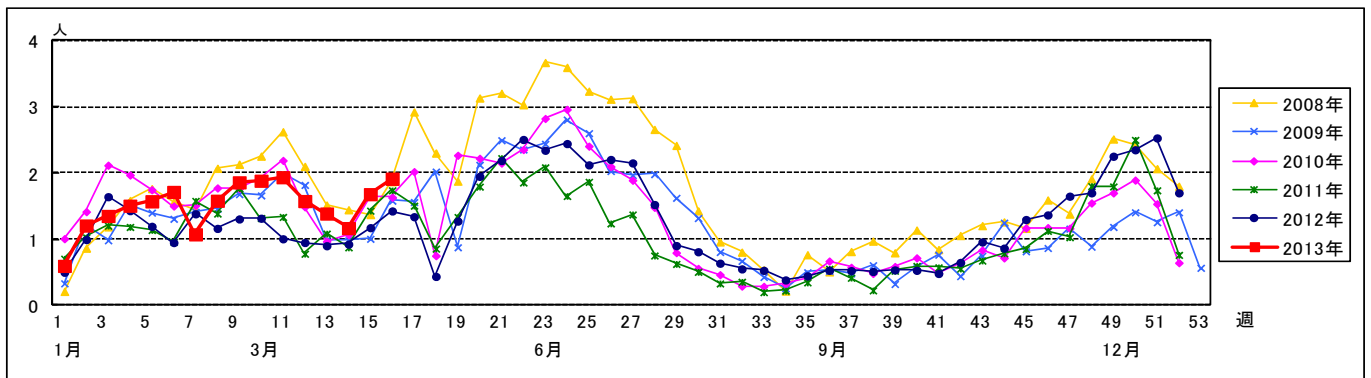
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>



定点把握の対象

1 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 16 週は市全体で定点あたり 1.92 と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値 8.00 を大きく下回っています。

平成 25 年 週一月日対照表	
第 13 週	3 月 25 日~31 日
第 14 週	4 月 1~7 日
第 15 週	4 月 8~14 日
第 16 週	4 月 15~21 日



2 **性感染症**:3 月は、性器クラミジア感染症は男性が 14 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 3 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 23 件、女性が 3 件でした。

3 **基幹定点週報**:全国では**マイコプラズマ肺炎**が定点あたり 1.00 を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に 1.00 を下回り、第 13 週 0.48、第 14 週 0.42、第 15 週 0.46、第 16 週 0.52 と落ち着いてきています。横浜市でも第 13 週 0.33、第 14 週 0.50、第 15 週 1.00、第 16 週 1.00、と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきましたが、全国より多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

4 **基幹定点月報**:3 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>